

『学習する楽しさや成就感を味わわせる学習指導の充実』

秋竹小学校

1 目 的

- ・ 基礎学力の定着を図るとともに、体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、児童の学習意欲を高めます。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり、外部の専門家による授業を行ったりして、児童の興味関心を高めます。
- ・ 校内現職教育の充実により、教師の授業力を高め、個に応じた指導の徹底を図るとともに、活力ある授業を展開します。

2 内 容

- ・ 各教科や総合的な学習の時間において、地域教材を活用した体験活動を充実させ、学習意欲の向上を図るとともに、体験活動の場において味わった感動や新たな発見を表現する言語活動を充実させます。
- ・ ゲストティーチャーを招いて専門家ならではの授業（出前授業）を行って、児童の興味関心を高めると共に、教師も授業に参加することで授業力アップを狙います。また「ハッピートークトレーニング」を行うことにより、子どもたちの言葉に対する感性を高めるとともに、言語力の充実を図ります。
- ・ コミュニケーション訓練を充実させ、個々の言語能力の向上を図ります。特別支援学級に在籍する子どもたちだけでなく、通常学級における特別な支援を要する子どもたちが苦手な分野を克服し、困り感を解消するとともに、学習への意欲を高めることができるような学習教具の充実を図ります。

3 評 価

- ・ 各学年の段階に応じた体験活動を取り入れることにより、学ぶ楽しさを味わうことができました。また、発見したことや感動したことを自分の言葉で表現する活動を通して言葉で伝えることの大切さと楽しさを体感し、学習意欲を向上させることができました。言語能力の育成は、温かい人間関係づくりにも役立っていると考えます。
- ・ 地域の伝統産業である七宝焼き・醤油造り、田植え・稲刈りという農業体験を通して、地域の伝統とそこで働く人びとの素晴らしさを知ることができました。



3年生 醤油づくり体験

4 課 題

- ・ 体験して得た思いを発信する場を確保するとともに、それを自己の生活に生かすことについても、取り組ませたいと考えます。
- ・ ユニバーサルデザインに基づいた学習環境づくりは、特別な支援を要する児童だけではなく全ての児童に必要であると考え、学習教具の充実と同時に取り組んでいきたいと考えています。

『豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実』

秋竹小学校

1 目 的

- ・ なかま班を中心に日常の活動や学校行事に取り組む中で、異年齢交流の充実を図り、その中で思いやりと感謝の心を育むとともに、児童の自尊感情を高めます。
- ・ 異年齢交流活動の一環として行っている遊びのなかに、施設や用具を活用した動きを取り入れることで、体力向上を目指すとともに、運動の生活化を図ります。さらには、水泳指導の基本について、教師と児童と一緒に学ぶ機会を設け、泳力向上をも目指します。
- ・ 防災教育の充実を図ることで、「自分の命は自分で守る」という意識を高め、いざというときに適切な行動をとることができるようにします。

2 内 容

- ・ 異年齢で構成した「なかま」を核として、日常的な活動を継続し、よりよい人間関係を育成します。なかま活動の一環として行うなかま遠足や運動会、「秋竹カーニバル」「ウィンターフェスティバル」などをさらに充実させます。よりよいなかま集団を構築するために、自主的な運営を支援するための用具を充実させます。
- ・ 個人差が大きくなる中学年を対象として、水泳の特別講師を招聘して特別水泳授業を行うことで、一人一人の泳力の向上を図ります。また、効果的な指導法について教師自身も研修を深め、泳力向上に役立つ用具を充実します。
- ・ 災害などの危険な状況下にあるとき、教師の在不在にかかわらず児童自身が自分の身を守る行動ができるよう、校内での避難訓練等をさまざまな形態で行うなど、防災教育を充実させます。



3 評 価

- ・ なかま活動を経ていくうちに、高学年はリーダーとしての思いやりと責任感を高め、低・中学年は高学年への感謝の気持ちを持ち、やがては自分たちがこの活動の中心となるのだという自覚を持ちます。温かい人間関係の中で、児童一人一人の自尊感情と自己有用感を育むことができました。
- ・ 「水遊び」から「水泳指導」へと形を変える段階で特別水泳授業を行うことで、水泳に対する苦手意識を取り除くと同時に、正しい泳法を身に付けさせることができました。教師自身も効果的な指導法を学ぶことができました。
- ・ 避難訓練の充実とともに、防犯教室の場を設定し、「自分の命は自分で守る」という意識を身に付けさせることができました。

4 課 題

- ・ なかま活動の中に、施設や用具を活用した運動や縄跳びを取り入れ、体力向上に取り組んでいきたいと考えています。

『ふれあいを大切にした体験活動の充実』

秋竹小学校

1 目 的

- ・ 自然の恵みに感謝する気持ちを育み、命あるものの大切さを知らせるとともに規律ある集団生活を通して、責任を果たし協力する心を育みます。
- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせます。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよい自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指します。

2 内 容

- ・ 春日井の自然の中での生活を通して自然に親しみ、自然の素晴らしさや厳しさを体験する中で、なかまとの心の交流を図ります。その際、子どもたちへのサポートを充実させるために、キャンプカウンセラーに支援を依頼し、指導の充実を図ります。
- ・ 日々の学習の成果を発表する場を設定し、学年など、集団として一つのものを創り上げる中で、表現力を高めさせます。そのために、発表に必要な材料、用具などを充実させます。
- ・ 心を一つにして合唱することの喜びを感じさせるとともに、学習発表会に向けて児童一人一人の表現力を向上させるために、外部講師を招聘して、合唱指導を受ける機会を設けます。
- ・ 学年の発達段階に応じて、植物の栽培活動をする中で、自然の恵みや生命の不思議を体験させます。そのための花壇等条件整備を進めます。同時に、栽培活動を支援するための児童向け図書を購入し、児童が主体的に栽培活動に関わることができるよう支援します。



2年生 いもほり体験

3 評 価

- ・ 4・5年生参加の野外活動に2名のキャンプカウンセラーを配置することができました。その結果、ウォークラリー、キャンプファイヤー等の活動に伸び伸びと取り組ませることができ、安全に充実した活動を行うことができました。
- ・ 卒業式に向けて、外部から講師を招聘して、高学年を中心に合唱指導を行っていただきました。子どもたちの良いところを伸ばす指導で、学年を越えて一つにまとまる喜びを味わわせることができました。
- ・ 植木鉢や学級園を利用し、学年に応じて植栽活動に取り組みました。自分で育てた野菜を収穫し、簡単に調理して味わうことができました。

4 課 題

- ・ 学級園が狭く、土の質も悪いため、全ての学年が使用することはできません。土の入れ替えや施肥等を計画的に進めていきたいと考えています。